

県内工芸の輸送機産業等に対する製品に関する試験・研究開発

－ 研ぎ出し変り塗の製品開発研究（第3報）－

Study on utilization of Aomori craft technology in transportation industry.
 - Developing new Tsugaru-nuri products for use in building interior materials (3rd Report) -

鳴海 藍、小松 勇、赤田 朝子、上原 彩子、梶井 紀孝*

(*石川県工業試験場)

本研究は、県内の漆工芸の JIS（日本産業規格）による性能試験と、それに伴う技術および製品開発を行い、輸送機産業や建築材産業など新たな産業分野に進出するための基盤整備を行うものである。

第3報では、JIS（K 5600）の塗料一般試験法-第4部：塗膜の視覚特性（鏡面光沢度、測色）に関する津軽塗の測定結果について報告する。

10 仕様（上塗または研ぎ出し×5 色）の鋼板試験片を促進耐光性試験（キセノン式）に供し、塗膜特性を評価した。鏡面光沢度評価では、試験前の計測において上塗仕様が 40～50、研ぎ出し仕様が 100 で、色による光沢度の差はわずかであった（図 1）。上塗仕様の表面がマットな質感なのに対し、研ぎ出し仕様の表面が鏡面のような光沢であることから、表面の凹凸の大小が光沢度に反映しているものと考えられた。光沢保持率は、キセノン照射 100 時間後で、仕様に係らず照射前の 20% 程度まで大きく減少した（図 2）。測色では、キセノン照射後にほとんどの仕様において ΔE で 15 以上の変化があることがわかった。特に黄色・緑色については、照射 100 時間と 400 時間の値がほとんど変わらないことから、100 時間で変化が飽和状態となっていたと考えられた（図 3, 4）。以上のことから、紫外線の影響が大きい環境では、光沢度・色ともに保持出来ないことが示唆された。今後は、現在測定中である屋外曝露試験の計測結果と照らし合わせて、再度評価検討する。

